

平成 30 年度篠ノ井高等学校入学式
式 辞

日毎に明るさを増す春の日差しを浴びて、草木が一斉に芽吹き始める季節となりました。

この佳き日に、同窓会長 清水賢一 様を始め、多数のご来賓のご臨席を賜り、長野県篠ノ井高等学校 平成 30 年度入学式を挙げて下さることを、心から感謝申し上げます。

また、ご参列いただきました保護者の皆様には、我が子の成長を願い、陰に日向に手を差し伸べてこられたご労苦に対し深く敬意を表します。

全日制課程 243 名、定時制課程 5 名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。高校時代は、自分の周りの様々な人々との触れ合いを通じ、人格の形成において最も深みや彩を増す時期です。新鮮で実りある経験をたくさん積んで下さい。

さて、日本の教育界では高校大学接続改革が始まっています。目的は「主体的、対話的で深い学び」を高校・大学の共通の目標とし、アクティブ・ラーニング等を取り入れて、授業を世界基準に近づけることです。もちろん、改革の方向性には賛成ですが、高校生にとっては「言うは易し行うは難し」の課題だと思います。皆さんには、ぜひ、逞しく挑戦して欲しい。

第一のチャレンジは、主体的な学びに向けて、今まで以上に知的好奇心を磨くこと。海洋生物学者、レイチェル・カーソンは、著書「センス・オブ・ワンダー」の中で次のように述べています。

『子供たちの世界は、いつも生き生きとして、新鮮で美しく、驚きと感激に満ち溢れている。残念なことに、人間の多くは大人になる前に、澄み切った洞察力や、美しいもの、畏敬すべきものへの直観力を鈍らせ、ある時には全く失ってしまう。』

美しいものを美しいと感じる感性、未知なものに触れた時の感激。それらの感情が知的好奇心を呼び覚まし、抑えがたい心の動きから得た知識・学問は自然に身につく。しかし、油断すると直ぐに消えてしまうという警告です。本校で、生涯消えることのない感性を磨き、主体的な学習者に育つことを願います。

第二のチャレンジは、英語力を磨くこと。大学入試制度改革では、皆さんの学年からセンター試験に替わる「新テスト」の導入、英語 4 技能の試験が課されることがすでに決まっております。従来を読む・聞く能力に加え、英語を書く・話す能力が測られます。実際に、異国の文化の中で人と触れ合うとき試されるのは、知識や経歴より、コミュニケーション能力に支えられたその人が持つ人間としての魅力です。人を惹きつける力のある人を見てみると、皆一様に生き方に自信を持っていて表現力が豊かです。自分の生き方を肯定し、自分と同じように他者の生き方を受け入れる懐の深さこそ、言語を問わずコミュニケーションの根本だからでしょう。英語学習を通して、表現力と自信を身に付けて欲しい。

第三のチャレンジは、未来を選択する精神の自由を獲得すること。冬の平昌オリンピックでは、世界的に活躍し全ての夢を手に行っているように見える選手でも、必ず迷い決断を迫られ、その時々を選択を繰り返して来た延長線上に今がある、と報じられていました。高校では自らの意思で物事を決定する機会が増してきます。目の前に広がる選択肢の多さに躊躇し、もし誤ったらと尻込みしてしまうかも知れません。その時には、人生は選択の自由の連続であって、一つの決定が全てではないことを意識してください。ただし、熟慮のうえ選んだ道に一步踏み出したら、振り返ることはあっても後悔はしない篠高生であることを期待しています。

最後に、あなたが好きで得意な課外活動にも、伸び伸びと取り組みましょう。仲間と共に泣き、共に笑い、掛け替えのない友情を育みながら、学業とクラブ活動の両立を成し遂げたら、何と素晴らしい高校生活でしょうか。心から応援しています。

創立 95 年の伝統を持つ本校で、「主体的・対話的で深い学び」を思い切り探究することを願い、式辞といたします。

平成 30 年 4 月 5 日

長野県篠ノ井高等学校長
岩 田 学